

科目区分	教職課程科目						
科目名	英語科教育法II						
担当教員	武藤 眞一						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜5	配当学年	3~4	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	英語教育に関して基本的な知識と考え方を身につけ、実際の英語の授業を行う上で必要な技法の習得を図る。文部科学省検定済教科書をもとに指導案、補助教材を作成するとともに、模擬授業（マイクロティーチング）も取り入れる。						
授業計画 Syllabus	第 1 回 日本の英語科教育の現状と課題 第 2 回 英語科教育の基礎知識と指導技法 第 3 回 Readingの指導（理論と技法） 第 4 回 Readingの指導（教案、補助教材の作成） 第 5 回 Readingの指導（マイクロティーチング） 第 6 回 Writingの指導（理論と技法） 第 7 回 Writingの指導（教案、補助教材の作成） 第 8 回 Writingの指導（マイクロティーチング） 第 9 回 Listeningの指導（理論と技法） 第 10回 Listeningの指導（教案、補助教材の作成） 第 11回 Listeningの指導（マイクロティーチング） 第 12回 Speakingの指導（理論と技法） 第 13回 Speakingの指導（教案、補助教材の作成） 第 14回 Speakingの指導（マイクロティーチング） 第 15回 まとめと定期試験						
参照URL Referance URL (s)							
授業方法 Class type	各自の作成した教案や補助教材について検討を加えたうえで模擬授業（マイクロティーチング）を行う。それぞれの模擬授業について全員で検討・講評を行う。						
評価方法 Evaluation	教案作成・模擬授業40%、定期試験20%、平常点（提出物、意欲、態度、出席状況）40%						
履修上の注意 Requirements and policy	英語の学力や指導技術の向上はもとより、教員としての資質を身につけるため、積極的な態度で課題や授業に取り組むこと。						
教科書 Textbook (s)	その都度、補助資料を用意する。						
参考書 Reference (s)	「教育実習生のための学習指導案作成教本・英語科」 蒼丘書林 ￥1100+税 「英語教員のための授業活動とその分析」大喜多喜夫著 昭和堂 ￥2800+税						
備考 Remarks							

科目区分	教職課程科目						
科目名	家庭科教育法II						
担当教員	守野 美佐子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	家庭科の学習指導について 本講義は、家庭科教育法 I の理解を基礎に、学習指導の計画、実践について力を養うことを目的とする。3年間、1年間、1学期間等の学習指導の計画の大切さを知り、学習効果を高める計画のあり方について考えてもらいたい。また、学習指導案の立案の仕方を学びながら、同時に多様な学習形態や学習方法を学び、各自で学習内容に合い学習効果を高める授業の工夫を考える機会を持ってもらう。実際に学習指導案を作成し、模擬授業を行いながら、指導計画や授業技術について相互に評価し合い、実践力を養うことを目指す。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 家庭科教育で育成したい力とは 2. 学習指導要領 1) 中学校技術・家庭科の目標 3. 学習指導要領 2) 高等学校家庭科の目標 4. 生活スキルの向上をめざす視点 5. 安全・安心・健康なくらしとウェルビーイング 6. 家庭科教育における実践的なシチズンシップ教育の可能性 7. 生徒を取り巻く携帯・ネット環境の問題について 8. 生活主体・責任ある消費者を育てる消費者教育と環境教育について 9. 家計管理とクレジットについて 10. 社会保障とリスクマネジメントについて 11. 子どもの育ちと親役割の学習について 12. 多様な学習形態 13. 実験・実習を含む授業 14. 家庭科の授業づくりと評価 15. まとめと質疑、応答
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	
評価方法 Evaluation	平常点30% 小テスト20% 提出物50%
履修上の注意 Requirements and policy	自分自身の指導上のこだわり、工夫点、配慮点などを明確にしてください。文章、および授業を行う表現力も高める努力をしてください。
教科書 Textbook(s)	家庭科教育法 I と II の講義共通で使用 家庭科教育法 中・高等学校の授業づくり、初版 中間美砂子編著 (建帛社)、ISBN4-7679-2084-1
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	教職課程科目						
科目名	家庭科教育法III						
担当教員	守野 美佐子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	現実の生活課題と家庭科カリキュラム開発 本講義は、家庭科教育IとIIの基礎理解をふまえ、現代のさまざまな生活問題を解決する能力を育てることをめざす家庭科教育のあり方を考える機会とする。子どもを取り巻く生活環境の変化とその問題点について目をむけ、認識を深めること。従来の家庭科カリキュラムにとらわれず、子どもたちにとって必要な内容、力を育てる方法を探り、カリキュラムの変革をはかる柔軟で斬新な発想ができることを目標に、現代の生活と密着した学習内容と指導方法を検討する。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 学習の動機付けとは 2. 学習指導案とは 3. 学習指導案の書き方 4. 高等学校用「家庭総合」の教科書を見る 5. 学習指導案 単元の目標を考える 6. 学習指導案 単元の時間配当と本時の目標・評価 7. 学習指導案 授業の展開を工夫する 8. 学習指導案の作成 1) 衣生活領域の1時間 9. 学習指導案の作成 2) 1)以外の1時間 10. ホームプロジェクトと学校家庭クラブ 11. 模擬授業 1) と評価 12. 模擬授業 2) と評価 13. 模擬授業 3) と評価 14. 模擬授業 4) と評価 15. 模擬授業 5) と評価
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	
評価方法 Evaluation	平常点20% 提出物50% 模擬授業30%
履修上の注意 Requirements and policy	自分自身が生活に目を向け、問題点の把握に全力を傾けること。いろいろな家庭事情の生徒を思いやれる先生になったつもりで生活問題の理解に務めてください。
教科書 Textbook(s)	家庭科教育法IIIとIVの講義共通で使用 家庭科への参加型アクション志向学習の導入、初版 中間美砂子編著（大修館書店）、ISBN4-469-27001-6
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育課程論						
担当教員	石井 英真						
学期	後期 前半	曜日・時限	火曜5	配当学年	2~4	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>カリキュラムという視点から自己の学校像を問い直す カリキュラムや教育組織（学級編成、時間割、教室環境などカリキュラム・授業の実行過程を枠付ける諸条件）という視点から、自己の想定する学校像を見つめ直し、そのイメージをより豊かにする。 また、自己の思い描く学校のイメージを具体化するための、カリキュラム開発に関する基本的な知識と技能を習得する。具体的には、授業づくりとカリキュラム開発、カリキュラム評価、学習指導要領改訂の歴史などのトピックを扱う。 なお、本講義では、実際に学校で使用されている教科書や、特色ある実践事例（文書、ビデオ）を素材としながら、個人または小グループでの作業・議論を軸に授業を展開する。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 オリエンテーション： 授業概要の説明。自分が考える理想の学校の時間割を創る。 第2回 カリキュラムと授業： 日本とフィンランドの国語教科書を比較検討し、教科内容の検討が授業づくりの必要条件であることを確認する。 第3回 カリキュラム開発の原則： カリキュラム概念の変遷、および、カリキュラム開発を進める上で考慮すべきポイントについて解説する。 第4回 カリキュラムと評価： 国際学力調査の結果と調査問題を分析し、日本の子どもたちの学力の問題について考える。カリキュラム評価としての学力調査の意味を理解する。 第5回 教育組織とカリキュラム： 自由学校のビデオを見て、学校教育（カリキュラムや教育組織の構造）に対する自分たちの固定観念を問い直す。 第6回 カリキュラム改革の歴史（1）： グループ作業により、日本の学習指導要領改訂と教育実践の歴史を自分たちで年表にまとめてみる。 第7回 カリキュラム改革の歴史（2）： 欧米や日本のカリキュラム改革の特徴的な実践事例を紹介しながら、系統主義と経験主義の立場の違いについて解説する。 第8回 まとめ： 教育課程論で学んできた内容を振り返る。筆記試験を行う。</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	筆記試験を行う。
履修上の注意 Requirements and policy	授業で行うグループ活動や議論への積極的な参加を期待する。
教科書 Textbook(s)	プリントを配布する。
参考書 Reference(s)	田中耕治・井ノ口淳三編『学力を育てる教育学』八千代出版
備考 Remarks	

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育原理						
担当教員	松岡 靖						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜5	配当学年	2~4	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>「教育問題を教育学の概念で分析する」というテーマのもとで、 第一の目的は学生が生徒として学習した内容を、教育学の概念で反省的に振り返ることである。 第二の目的は教育理論のうちで大人や保護者や教育者として役立つ部分を、学生が理解することである。 具体的な概要は、第一に学校教育制度の現状について歴史的な背景を含めて説明する。 第二に学校化社会の成り立ちを業績原理とジェンダーの観点から考えさせる。 第三にカウンセリングマインドを具体的スキルと思想史的背景から理解させる。 第四に教育評価に関する類型論について比較検討させる。 第五に教育そのものについて常識と定義の違いを説明する。</p>						
授業計画 Syllabus	<p>第1回 オリエンテーション：授業概要の説明 第2回 高校と大学の違い(1)：皆さんが意識したズレと理由は？ 第3回 高校と大学の違い(2)：教育制度と進学率の歴史 第4回 高校と大学の違い(3)：社会学者が大学生を比べると？ 第5回 学校化社会の戦略(1)：帰属原理から業績原理へ 第6回 学校化社会の戦略(2)：女らしさと業績原理のあいだには？ 第7回 学校化社会の戦略(3)：学校は塾と授業で勝負できるのか？ 第8回 カウンセリングマインド(1)：構成的エンカウンターを体験 第9回 カウンセリングマインド(2)：フロイトからロジャーズへの学説史 第10回 教育評価を振り返る(1)：二つの方法の長所と短所 第11回 教育評価を振り返る(2)：三つの段階の役割分担 第12回 「教育」の常識から定義へ(1)：「万齋わが子を鍛える」 第13回 「教育」の常識から定義へ(2)：中内敏雄の教育観とは？ 第14回 教育原理を実践する：グループ発表と相互コメント 第15回 レポートの返却と成績評価の説明</p>						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	受講者が多くなさそうなので、前半は講義が中心ですが、後半は聴き合いやディスカッションを取り入れます。何度かは映像資料も折り込みます。						
評価方法 Evaluation	平常点40点（授業参加度、コメントカード、レポート発表などを総合する） 学期末レポート60点（教育原理の知識を踏まえて、現代日本の教育問題を論じる）						
履修上の注意 Requirements and policy	教科書は授業でも使いますが各自でも読んでください。また必要な資料は配付して参考文献も紹介します。参加者が自分の物語をテキストに仕立ててほしいです。						
教科書 Textbook(s)	上野千鶴子『サヨナラ、学校化社会』ちくま文庫、2008年、978-4-480-42460-0						
参考書 Reference(s)	教科書は指定しますが、必要な資料を配布して、参考文献も紹介します。						
備考 Remarks							

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育指導論						
担当教員	藤本 浩一						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜5	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	教職指導の理論と実際を学ぶ。学級には様々な事情を持つ生徒が集まっていて、教師はそれぞれの生徒に応じた支援を行うことが求められている。本講義では、発達障害および行動問題を抱えた生徒への理解と、具体的な支援方法について知識を深め、実際に応用できるように簡単な実習を行う。また、生徒や保護者に対する面談に活かせるような面接技法を練習する機会を設ける。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生徒に自尊心を指導する。自己呈示の心得、ビデオ「自己」 2. 知的障害児への認知訓練 3. LD、ADHD児の理解と支援 4. ASD (PDD)児の理解と支援 5. 発達障害児を持つ家族の心理 6. 社会的スキル訓練 7. 心理療法 (精神分析の考え方①) 8. 心理療法 (精神分析の考え方②) 9. 心理査定 (動的家族画) 10. 傾聴面接の実習① 11. 傾聴面接の実際② 12. データ収集とKJ法 13. セルフコントロール 第1回まとめのテスト 14. 「いじめ」の対処法 15. 拒食 第2回まとめのテスト
参照URL Reference URL (s)	
授業方法 Class type	講義、グループ討論、実習
評価方法 Evaluation	平常点20%、筆記試験80%
履修上の注意 Requirements and policy	教職を志す学生にふさわしい態度で受講して下さい。
教科書 Textbook (s)	
参考書 Reference (s)	
備考 Remarks	

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育心理学						
担当教員	藤本 浩一						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	1~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>学校教育の心理学 教育場面では、複雑化する現代社会を反映して、知的伝達のみならず、情緒面での成長を援助することが重視される。自らが精神的に健康であるばかりではなく、円滑な人間関係を築き上げ、他者によい影響を与えることができる人間の形成が学校教育に期待される。この講義では、そのために必要な発達心理学や学習心理学の基礎事項をはじめ、子どもの意欲と学力、いじめ問題等の事柄について詳しく検討する。また、幼児から青年までの発達障害について、知能や人格特徴等の単一の要因によるのではなく、心身の相互作用によることを学習し、総合的に理解することを目指す。一例として、言葉の発達の遅れが知能面のみに起因するのではなく、構音器官の生理的な要因や聴覚の問題、そして二次的な心理的問題等を含んでいることがあげられる。そして通常学級においても、広範囲な子供達を対象にした心身両面にわたる特別支援教育のあり方をさぐる。視聴覚教材を併用する。</p>
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. わかる喜び学ぶ楽しさ 2. エリクソンの生涯発達論 3. ピアジェの認知発達 4. 思春期・青年期 5. 社会性の発達と「いじめ」 6. 自己調整学習① 7. 自己調整学習②、応用、記憶 8. 自己調整学習③、学習理論 9. 不適応、不登校 10. 教室での発達障害 11. 知能とはなにか 1 12. 知能テスト 13. 生徒の心理アセスメント 第1回目テスト 14. 教師の心理、リーダーシップ 15. 学級集団 第2回目テスト
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義、討論、視聴覚教材利用
評価方法 Evaluation	平常点20%、筆記試験80%
履修上の注意 Requirements and policy	専門の勉強以外に教職科目の単位を取得することはそれほど容易ではないので、受けるのなら最後まであきらめないでしっかり受講して下さい。1年次から受講できますが、教員志望にふさわしい授業態度が望まれます。
教科書 Textbook(s)	パワーポイントのプリントを出来るだけ配布します。
参考書 Reference(s)	学校教育の心理学 著 北尾倫彦他（北大路書房）
備考 Remarks	

科目区分	教職課程科目						
科目名	教職総合演習						
担当教員	加藤 巡一						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	子ども達の豊かな将来のために これからの時代を担う子供たちの教育に携わろうとする者は、世界的に行き詰まりをみせる環境問題やわが国の抱える深刻な少子・高齢化問題等について理解を深め、子供たちに様々なヒントを提供し、自他の生命と人権の尊重を軸にして適切に指導することができるような資質能力を育てなければいけない。教職を目指す学生はこのことを踏まえつつ、諸課題のうちいくつか選択した課題（例えば地球温暖化、食料、エネルギー、民族、宗教、家庭のあり方、福祉、医療、食文化、マスメディア、ストレス等）についてグループを構成し、各種資料や、関係施設の訪問等を活用して情報を集め、ディスカッションやディベートを通じて互いの考えや意見を出し合い、考察を深めていく。最後にまとめたものをグループまたは個人ごとに発表する。その過程を大切に、現実の社会の状況や課題を適切に理解するとともに、児童・生徒に今何をすべきかを提案し、その指導方法を体得する。
授業計画 Syllabus	第1回 教職総合演習の概論 第2回 各論（人権に関わる諸課題） 第3回 関心のある課題別でのグループ分け 第4回 ディベートの目的および方法 第5回 ディベート（1） 第6回 ディベート（2） 第7回 各論（世界の水をめぐる課題） 第8回 課題別グループ研究 第9回 研究発表と質疑応答（1） 第10回 研究発表と質疑応答（2） 第11回 研究発表と質疑応答（3） 第12回 各論（生活とエコロジー） 第13回 研究発表と質疑応答（4） 第14回 研究発表と質疑応答（5） 第15回 教職総合演習のまとめ
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	
評価方法 Evaluation	課題発表、レポートによる
履修上の注意 Requirements and policy	2/3以上の出席が必要
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	教職課程科目						
科目名	教師論						
担当教員	岡本 武利						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜5	配当学年	1~4	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	子ども、保護者、地域から信頼される教師像を追究するをテーマとする。 先ず、著名な教育者の教育観を熟知したり、現代教師の実情を把握したりしながら、教師変革の視点を探る。 また、教師の好ましい資質を、多方面から捉え、信頼される教師を目指す意欲を高める。						
授業計画 Syllabus	<p>第1回 オリエンテーション : 講義内容、専門職としての教師</p> <p>第2回 過去の教育者に学ぶ : デューイ、ペスタロッチ、東井などの、著名な教育者の理論</p> <p>第3回 教育の動向 : 教育の変遷を知り、今必要な教育内容の把握</p> <p>第4回 教師の実情 : 現代教師の良さ</p> <p>第5回 子どもの実態 : 体験不足、孤独症候群、マニュアル人間等の実態</p> <p>第6回 子ども本来の姿 : 内に秘めた力の大きさの確認</p> <p>第7回 子どもにつけたい力 : レインボープランとしての7つの力</p> <p>第8回 地域の要望 : 一般市民からの教師への要望</p> <p>第9回 学習指導 : 子どもが課題解決を図る授業の形成</p> <p>第10回 生徒指導 : 善悪を体で感じとる生徒指導</p> <p>第11回 その他の指導(1) : 防災教育の在り方</p> <p>第12回 その他の指導(2) : 知恵につながる食育教育の在り方</p> <p>第13回 教師の資質 : ハード、ソフト両面での、教師にふさわしい資質</p> <p>第14回 教育観を持つ : 現在の教育界の実情を知り、教育観を持つ</p> <p>第15回 教育観を深める : 教育観の交換会</p>						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	講義・演習 参加型授業形態をとる						
評価方法 Evaluation	平常点(出席状況・小テスト・授業への参加度等) 30% 演習点(提出物・興味、関心度等) 40% レポート点(子ども、保護者、地域から、信頼される教師像を描けているか) 30%						
履修上の注意 Requirements and policy	多人数の授業になるが、発言の場を多くつくるので、意欲的な発表を期待している。						
教科書 Textbook(s)							
参考書 Reference(s)	中学校学習指導要領解説 総則編(平成20年版) 教育六法						
備考 Remarks							

科目区分	教職課程科目						
科目名	国語科教育法Ⅱ						
担当教員	高田 実千代						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	中高国語教員としての基礎知識の養成と教授法の研究 主眼となるテーマは、生徒が動く授業作りを中心とした教授法の探究。「国語科教育法Ⅰ」の内容を踏まえた上で、領域ごとに生徒の実状と課題を探り、課題の実践的解決法としての教授法を考える。視聴覚・情報機器の活用および講義一辺倒にならない作業を取り入れるなど、視点を変えた「生徒が動く授業作り」を中心に考えて、自らも体験していく。さらに、国語教員として必要な知識の確認も行う。
授業計画 Syllabus	<p>第1回：《授業のオリエンテーション》 授業の目的及び今後の演習内容を説明。言葉の時間感覚を見直し、新指導要領が目指すもの考える。次に扱う「読書指導」の導入。</p> <p>第2回：《KJ法と生徒を動かす授業―「読書指導」課題探求》 KJ法というワークショップの紹介と、それを使って「読書指導」を考える。</p> <p>第3回：《生徒を動かす授業―「読書指導」実践と、「書く」授業 課題探求》 「読書指導」の振り返り。「書く」授業では、作文の基礎をチェックした後、「書く」楽しみを育てる授業のアイデアを出し合い、授業作りをする。</p> <p>第4回：《生徒を動かす授業―「書く」授業 実践》 前回の授業を受けて、授業実践。</p> <p>第5回：《生徒を動かす授業―「古典」の授業 課題探求》 KJ法を使って、中学の古典の授業の課題を考える。</p> <p>第6回：《生徒を動かす授業―「古典」の授業 実践》 前回の授業の続き。群読などの手法を授業に取り入れるなど、実際に体験しつつ、古典の授業展開を考える。</p> <p>第7回：《生徒を動かす授業―「話す・聞く」の授業 課題探求》 自分たちの「聞く」力を、実際の入試問題から試す。さらに、「話す」「聞く」の両方を必要とする「話し合い」の種類と方法を知る。</p> <p>第8回：《生徒を動かす授業―「話す・聞く」の授業 体験》 前回の授業の続き。実際に討論やディベートを経験する。</p> <p>第9回：《生徒を動かす授業―「話す・聞く」の授業 実践》 前回の授業の続き。文学教材にディベートを取り入れることの意味（長所・短所）を考える。</p> <p>第10回：《生徒を動かす授業―「言葉」の授業 課題探求》 生徒たちが苦手な文法、そして語彙。楽しく、わかりやすく教えるためのアイデアを出し合い、考える。</p> <p>第11回：《生徒を動かす授業―「言葉」の授業 実践》 前回の授業の続き。模擬授業。</p> <p>第12回：《生徒を動かす授業―「言葉」の授業 実践と展開》 前回の授業の続きと古典文法への応用。</p> <p>第13回：《生徒を動かす授業―「言葉」の授業 実践》 前回の授業の続き。模擬授業。</p> <p>第14回：《生徒を動かす授業―韻文の授業 課題発見》 韻文を取り上げ、基礎知識の確認と鑑賞の授業を考える。</p> <p>第15回：《今までの授業を振り返って》 今までの授業を振り返る。次年度の国語教育法Ⅲの授業の予告。</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義と演習
評価方法 Evaluation	レポート30%、小テスト20%、演習・課題の内容30%、平常点20%。但し、欠席及び遅刻した場合は減点する。
履修上の注意 Requirements and policy	教員志望者として、全て出席であることが望ましい。

教科書 Textbook (s)	プリントを配布します。
参考書 Reference (s)	学習指導要領
備考 Remarks	

科目区分	教職課程科目						
科目名	生徒指導論						
担当教員	加藤 巡一						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	2~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	子ども達が心身ともに健やかに育つために 生徒指導は、全ての児童・生徒のよりよき人格の発達を目指し、社会生活や職業生活の中で、人間としての生き方についての自覚を深めるものである。このことを踏まえ、生徒指導の意義と課題、生徒理解の実際、家庭や地域との連携、特に不登校、いじめ等について考察する。生徒理解の手法やカウンセリングマインド等についても体験的に修得する。また、事例研究として様々な問題場面を提示し、学校組織として最善の対応を研究する。さらに児童・生徒の将来を見通した生き方の指導として進路指導を位置づけ、先輩や事業主の話を聞くチャンスをつくることや、在校生、卒業生、教師、父母、地域住民との情報交換や交流の場を学校が提供することで、自らの進路を責任をもって選ぶことができるようになる指導を探求する。
授業計画 Syllabus	第1回 生徒指導の意義 第2回 生徒指導の課題と実践 第3回 生徒指導の基礎理論（適応の概念） 第4回 生徒指導の基礎理論（適応の過程） 第5回 子どもの自我形成 第6回 生徒理解（心理検査） 第7回 生徒理解（まとめ） 第8回 非社会的問題行動 第9回 不登校への対応 第10回 反社会的問題行動 第11回 いじめの防止と解決 第12回 事例研究（1） 第13回 事例研究（2） 第14回 生徒指導のまとめ 第15回 質疑応答と試験
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	
評価方法 Evaluation	試験による
履修上の注意 Requirements and policy	2 / 3 以上の出席が必要
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	教職課程科目						
科目名	被服繊維学						
担当教員	古濱 裕樹						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	被服素材の主たるものは繊維である。繊維は天然・合成問わず数多くの種類があり、各繊維の特徴を活かしたアパレルが企画され、世に出ている。ここでは、あまたの繊維を順に追って、概略や特徴、化学・物理的性質、そして取扱いや最新の技術動向まで触れ、詳しく解説する。また、20世紀の後半に誕生したスーパー繊維や新合繊、さらにそれを超えた快適性や審美性などを有する機能性繊維についても、最新の動向を踏まえて紹介する。
授業計画 Syllabus	<p>第1回：繊維概論と化学繊維開発史</p> <p>第2回：天然繊維－植物繊維－①綿</p> <p>第3回：天然繊維－植物繊維－②麻、その他の植物繊維</p> <p>第4回：天然繊維－動物繊維－①絹</p> <p>第5回：天然繊維－動物繊維－②羊毛、獣毛</p> <p>第6回：化学繊維－再生繊維・半合成繊維－レーヨン、キュプラ、アセテート</p> <p>第7回：化学繊維－合成繊維－①ナイロン、アクリル</p> <p>第8回：化学繊維－合成繊維－②ポリエステル</p> <p>第9回：化学繊維－合成繊維－③ポリウレタン、ビニロン、他</p> <p>第10回：化学繊維－新しい繊維－リヨセル、ポリ乳酸繊維、他</p> <p>第11回：化学繊維－無機繊維、スーパー繊維－炭素繊維、アラミド繊維、PBO繊維、他</p> <p>第12回：新感性繊維－極細繊維、異形断面繊維、他</p> <p>第13回：フロンティア繊維－超親水性繊維、インテリジェントファイバー、他</p> <p>第14回：繊維製品のリサイクル</p> <p>第15回：総括と試験</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	平常点(20~30%)、小テスト(25~35%)、試験(40~50%) 遅刻、欠席は平常点より減点。3分の2以上の欠席で平常点はほぼなくなる。
履修上の注意 Requirements and policy	特になし
教科書 Textbook(s)	プリントを配布する。
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	評価方法欄には誤記があります。全授業回数の3分の2以上出席しなければ、平常点は非常に低い点数になるといふことです。評価方法欄の訂正はシステム上不可能なので、ここに訂正を記します。(H22年9月)